

# 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月28日

事業所名：銀河鉄道

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	5	身体を沢山動かして遊べるホール等クラス同士で連携を取りながら使用している。 また、活動内容を工夫しながら療育にあたっている。	個別療育や静養室、活動室など狭く感じるが「定員数」では満たしている。 お子さんの活動量に合わせ、人数を分けて活動したり配慮していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	17	1	職員と非常勤職員の活用がうまくなされていると思う。	活動の振り返りを職員が協働して行うためには、送迎を専ら行う職員を配置するなどの工夫が必要だが検討していきたい
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	4	わかりやすくするためにマークを付けたりしている。活動等の視覚的支援は今後より良くしていきたい。	各クラス主たる活動の部屋が一つしかなく集団活動、食事、個別指導など複数の目的で使用していて、特に ASD の特性のある子に分かりやすい物理的構造化を整えることができない。せめて個々のブースの設置するなど個別の活動を保障したい。 廊下が多い。視覚情報が多くなり気が散ってしまう。 2階へのアクセスが階段のみ。体に障害のある職員の雇用に支障がある。 考えて整備していると思うが、バリアフリーや個々に合わせたものとは言えない。今後も考えていければ。 今ある施設をより良いものへとしていくために工夫しながら環境を整備していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	4	活動に合わせた空間になるよう努力もしていると思う。普段から感染予防のため消毒などこまめにしたり、室内を整えています。	教材等の収納スペースが狭いためか、その日に使用するもの等を廊下に置かざるを得ない。廊下は雑然としていて心地よい環境ではない。今後、棚を設置するなどして見直していく。

業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	14	3	皆で考えていると思う。	銀河の目標及び達成のための方策が示され、それに基づいて職員個々が自らの目標と達成のための方策を表明し実行する、というプロセスが前提ではないか。それを経ずに自己評価を求めても、個人の感想に過ぎず、PDCAは回らない。 全体的な目標をしっかり決めていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16	0	すべて添えるわけではないが、考えていると思う。 内容を周知し業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	1	ホームページに公開している。	職員の評価、保護者の評価を踏まえて事業所の自己評価がなされているかどうか不明である。 支援の質の評価・改善ネットに公開しても、内容について職員に共通の認識と改善のための意志がなければ意味がない。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	15	1		今後第三者評価の活用を行なっていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	17	1	内部研修を含め多くの研修の機会があると思う。 日々研修に参加できる機会を作っている。"	経験年数、職員の特性等を踏まえ個々の将来像を想定し計画的に研修を進める必要がある。 年間研修計画による確実な資質の向上が必要である。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	17	0	児童発達支援計画の作成はされていて、モニタリングと計画の更新も行われている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	1		利用者全員に実施されていない。個別検査をする機会を拡充する必要がある。

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	17	0	これまでの実践を発達支援の5領域にまとめ、それに基づいて月案などの計画を立案している。	ガイドラインの支援内容についての理解を進める必要がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	17	0	個別支援計画に沿った支援をしている、しようとしていると思う。	個別支援計画など非常勤職員と情報共有を図っていきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	18	0	行っている。 責任者、担当者、助言者が月案を立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17	0	日々新しい活動を考えていてすごいと思う。	午後の時間の過ごし方など、さらに工夫が必要である。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	16	1	努力していると思う。来年度はさらに良くなると思う。 個別の活動が十分に保障できていない。	令和5年度は個別支援プログラムの充実を図っていきたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	16	0	全体の打ち合わせはルーチンとして行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15	1		送迎車（バス）に乗務する職員があり、その日の振り返り協働して行えない環境なので改善策を考えていきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	17	0	個別支援計画とクラスの月案と記録を一体とした記録用紙の様式を定め、支援の検証、改善につながるよう工夫している。 担任間で日々話し合い考えています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	17	0	計画的に実施できている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	17	0	児発管や担任が参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	17	0	関係機関との連携が少しずつ進んでいる。	
	23	"（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている "	16	1	必要であれば、関係機関と連絡を取り連携している。	連携が十分かどうかは検証していきたい。
	24	"（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている "	17	0	実施要項、書式を一部改善した。	もう少し整備する必要がある。 嘱託医を含めた体制を構築する必要がある。"
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17	0	計画的に実施できている様子。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	17	0	計画的に実施できている様子。 今後小学校との連携をさらに深めていければ良いと思う。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	15	1	事業や食事、活動など様々なことを他事業所と情報交換をしながらより良いサービスを提供できるよう工夫している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	17	0	園庭遊びでは、保育園の幼児と同じ場で活動している。	今後、交流の機会を企画していきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	17	0		

関係機関や保護者との連携	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	17	0	連絡帳を通じて、様子を伝えあっている。 モニタリングの機会に発達の課題等を確認している。 状況についての伝えあいはできている。	課題については、個別支援プログラムを通してさらに進めたい
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	13	3	ぽっぼやの際に結果として保護者支援となっている取り組み（LSF 作成）がある。	来年度はライフサポートファイル書こう会を企画している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	17	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	17	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17	0	ぽっぼや教室の実施、公式 LINE での情報交換など複数のチャンネルを通して行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	12	ぽっぼや教室で保護者同士が連携していけるよう企画している。	父母の会はない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	17	0	相談の体制はある。	
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	17	0			

保護者への説明責任等	38	個人情報の取扱いに十分注意している	16	1		第三者の入る執務室に個人情報が無造作に置かれていることがある。 コンピュータのディスプレイがつけっぱなしの時がある。 委員会で検討していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16	1	特性のある保護者への対応は職員個々に任されている。	利用者への伝達については、構造化や視覚支援が十分とはいえない。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	8		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	15	2		保護者への周知は不十分なので各種マニュアルや年間避難訓練計画についてお知らせしていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17	0		今年度訓練は定期的実施したが、利用者の実態を踏まえた有効な訓練となっているかどうか検証と改善が必要。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	17	0	利用開始時に確認。 アレルギーに関しても、きちんと把握に努めている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17	0	利用開始時に確認。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	4		書式やヒヤリハットの必要性について委員会でも検討していきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	17	0	研修の時間を確保し実施した。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	16	0	適正化マニュアル、実施規定等を作成した。 個別支援計画に記載し保護者の了解を得ることとしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。